

平成 23 年 度

ふれあい地域懇談会報告書

〈 鎌倉地域 — 東地区 〉

1 日 時	平成23年8月1日（月） 午後2時～4時
2 場 所	鎌倉市役所 講堂
3 出 席 者	自治・町内会長他 22名
4 市側出席者	松尾市長、瀧澤経営企画部長、島田世界遺産登録推進担当担当部長、嶋村防災安全部長、小磯市民経済部長、相澤環境部長
5 テ ー マ	1 東日本大震災の教訓と鎌倉市の対策について 2 「ごみの減量化対策への協働」について —自治・町内会の位置づけと役割分担— 3 世界遺産登録を前にした地域課題について

平成 23 年 11 月 経営企画部 市民相談課

テーマ1 東日本大震災の教訓と鎌倉市の対策について

●葛西ヶ谷保郷会自治会 岸会長

まず、東日本大震災を経験して、鎌倉市としてどんな問題があったかを、総括して発表すべきだと思うが、まだ見たことがない。

防災行政無線は確かに作動していたが、ところがそれをバックアップするテレホンサービス・鎌倉FMが全く機能していない。テレホンサービスは停電で電話がかけられない、携帯電話はつながらない、そこで鎌倉FMと思ったら停波していた。

窓を閉めていてもFMラジオは聞こえるので、鎌倉FMは、かなり有効なバックアップだと思っていた。

鎌倉FMは社員数 6 人の小さい企業のようなのだが、鎌倉市が相当出資していると聞いている。市としてタイアップを強化して、バックアップの役に立つようにしてほしい。

皆さん、他にもたくさん問題点を感じていらっしゃると思うが、意見をどんどん出して討論してはどうか。

○嶋村防災安全部長

東日本大震災を受け、鎌倉の防災の課題が浮き彫りになった。主な課題として4点あげられる。

1 点目は、これまでは自然災害をどのように防いでいくかという「防災」の視点でまちづくりを進めてきたが、被害をいかに少なくしていくかという「減災」の取り組みが重要ではないかということである。国や県でも課題として認識している。それとあわせて、個人個人の備えである自助の力、自治会町内会など地域の共助の力、行政として行うべき公助の力、この3つの助ける力を、うまく重ね合わせていくことが大事だということ。

2 点目は、今回、情報提供手段の重要性が改めて確認された。今回、全市的に「防災無線が聞こえない」あるいは「聞き取りづらい」というお話をいただいている。これまでも複数の情報伝達手段を準備していたが、更なる伝達手段の必要性が課題になっている。

現在、鎌倉市には、137 基の防災無線が建っており、震災前には、あと7基増やし、144 基とする計画であった。

しかし、今回の震災により、新たに聞こえないことがわかった地域のうち、沿岸地域及び観光客への伝達を目的とする鎌倉地域に6基増設する予定である。

また、防災無線放送の複数の補完手段の整備として、防災ラジオを導入する。通常はラジオとして使えるが、鎌倉市の防災行政無線が流れるとそれを自動的に受信して、家の中で防災無線放送の内容が聞けるものを作ろうとしている。まず、試行として、200 台を発注予定である。

これで、防災無線放送が聞こえない地域を補完できるかを年度内に調査して、有効であれば、来年度以降、数を増やしていこうと考えている。

3 点目は、津波対策である。震災後、神奈川県相模湾に面している 13 市町が神奈川県に対して、津波想定の見直しを早くするよう要望を出している。

今年度中に神奈川県が新しい津波想定を出す予定になっている。それを受け、鎌倉市も来年度以降作り直して、皆さんにお配りする。ただ、それまでに何もしないということではなく、特に沿岸域の自治町内会の皆さんに訓練に参加していただき、その場での課題を挙げていただきたいとお願いしている。

また、市内の 300 本の電柱に標高表示をする。東日本大震災後、市民の皆さんから防災無線の次にお問い合わせが多いのが、自分が住む場所などの標高についてである。秋頃までに「ここは海拔何メートル」という表示をすることにしている。さらに、海沿いの公園の海拔表示を、7月に設置をしたこと。広報かまくら8月15日号に鎌倉市全域の海拔を色分けした海拔マップを掲載、配布することも行う。お住まいの場所、避難を考えている場所がどれ位の高さの場所なのか参考にしていきたい。

4 点目は、観光滞留客についてである。今回の震災でJRが運転を見合わせ、大船、北鎌倉、鎌倉で帰れない観光客が 5,000 人出た。当初、鎌倉市の避難所に誘導したが、ミニ防災拠点があちこち溢れて、入れなくなり、急遽、芸術館や武道館や鎌倉体育館など、避難所に設定されていない施設も臨時で避難所として開放した。今後は、こういうことが想定されるので滞留客の対策も進めていきたい。あわせて、観光客の皆さんにも備蓄品を渡す予定をしている。

観光客の方々にも鎌倉の標高を知っていただき、また、避難所を市で設定して避難していただく。その誘導の仕方などについても取り組みたい。

まだ問題はたくさんあり、検討している段階である。今回の大震災の教訓と鎌倉市の当面の取り組みについて説明した。

●葛西ヶ谷保郷会自治会 岸会長

現在の防災行政無線は、たくさん建てても、窓を閉めていたら聞こえない。逆に窓を閉めていても聞こえるようにすれば、近くの人にはうるさくてしょうがない。同じ放送を何ヶ所かに区切って、放送するのではなく、2~3 回繰り返し放送してはどうか。

放送していることに気づき、窓のところに飛んでいくと放送が終わっていることが多い。

繰り返し放送すれば、聞くチャンスが 2 倍、3 倍になる。子局を建てるより費用もかからないし、3 地区に区切って放送するエネルギーと、3 回繰り返し放送するエネルギーは同じであるし合理的である。

○嶋村防災安全部長

防災無線放送の聞こえる範囲は、おおむね半径 250 メートルである。この、それぞれの円が重なるとハウリングを起こすので、それが重ならないようにする。また、山に反響して聞こえづらいということもある。このため、現在では市内を 2 つに分けて放送している。

基本は2回繰り返して放送する。聞こえづらい場合には総合防災課に連絡いただくと、まず、スピーカーの位置、向き、音量を微調整する。この方法で、3月以降26件改善されている。ただ、鎌倉には山がたくさんあり、市内全域に放送を聞こえるようにすることは難しいと思うし、補完措置は必要だと思う。

そこで、新しい補完措置の手段として、防災ラジオを試行する。合わせて、皆さまにお願いしたのが、東日本大震災の際、ラジオをお持ちでない方が非常に多かった。鎌倉市から防災無線で情報をお伝えしているが、大きい災害だとNHKでも最新の情報を常に流しているので、ぜひ準備していただきたい。

情報伝達が、災害の際一番重要になるので、こういう伝え方もあるというご提案があったらお教えいただきたい。また、自主防災組織の中で、町内の連絡体制や仕組み等を検討されているなどの事例があれば、お教えいただければ全市的に広げていきたい。

●西御門自治会 閑田会長

ミニ防災拠点に避難する際、昼間はいいが、夜間など門が閉まっている場合にはどうなるのか。災害、津波のときだけでも、入れるようなことは考えられないのかと。学校は今後検討してみますということであるが、市でも検討願いたい。

○嶋村防災安全部長

地区ごとに地域をよく知る皆さんで話し合いをして、一番よい避難場所、手段などを決めていただいてもよい。また、総合防災課にも相談していただいて、地域と行政と一緒に考えることも行いたい。その中で、行政に任せること、町内会でできること、個人でできることを整理して、一緒に防災を考えていくということも可能であるし、お問い合わせいただければと思っている。

●西御門自治会 閑田会長

ミニ防災拠点については、学校が主体的になっていただいて、なんとかしなければいけないというところがある。

●葛西ヶ谷保郷会自治会 岸会長

海拔表示をするということだが、海拔、すなわち津波の高さと考えていいのか。

○嶋村防災安全部長

津波の想定についてはこれからであるが、皆さんが今いる場所の海拔を知ることによって、逃げる算段が検討できる。また、観光客は海や駅が、どちらの方向か分からない人もいるわけで、観光客や外国人の方でも分かるように表示する。

●葛西ヶ谷保郷会自治会 岸会長

ここは高い場所か、低い場所かという物差しになるということか。

○嶋村防災安全部長

一つの目安にさせていただく。

●葛西ヶ谷保郷会自治会 岸会長

ひぐらし公園は道路から4~5メートル下まで公園がある。そのがけの途中に看板が立っていて、海拔5.6メートルと表示されているが、これはどこを表示しているのか。聞いたところ、一番下の場所だと言われた。看板が立っているところは、そこから2~3メートル高いのである。表示をするならこの場所かを明示したほうがよいのではないか。

●鎌倉ハイランド自治会 藤原会長

昨年のふれあい地域懇談会での大きなテーマは防災だった。去年は、まさか東日本大震災が起きるとは思っていなかったわけだが、一年が経ってもあまり変わっていない。

今回の震災では、停電はあったが、決定的な被害はなかった。ライフラインが、もっと致命傷を負って火災発生、人身事故、避難時の混乱などの深刻な状況になったら、こんな程度では済まなかったのではないか。

課題が防災無線が聞こえない程度にとどまっている。潜在的な課題はまだたくさんあると思うが、分からないのだ。それなのに、一年前と同じテーマであることはおかしいと思う。何も進んでいない。

私の自治会で、東日本大震災後に防災アンケート調査を行い、全戸に回答してもらった。

その中から要約して2~3話す。まず、情報関係で、非常事態になったらワンサイドの放送だけでは行動が取れない。市側と情報交換して適切に動くことが必要になる。公助と共助の関係が、しっかり取れていないと思う。

それから、自主防災組織が動いていない。私のところの一番の問題は人材不足であり、良きリーダーがいらない。応急体制、誘導、初期消火など、人は割り振ってあるが、訓練を実施していない。今後の課題であり、いろいろご指導いただき立て直していきたい。

それからアンケートの中で、二小、二中の父兄から、大震災当日3時か4時に子供が帰ってきたが、教諭が帰宅を判断するマニュアルがあるのか聞いたところ、無いという回答だった。早急に作る必要があると思う。

去年もお願いしたが、困るのが要援護者の扱いで、昨年からは進展していない。避難支援者のリストがあるが、避難時に誰がサポートするかという欄が空欄である。自主防災組織と本人、家族との話し合いができていない。そのあたりが、課題として浮かび上がった。

○松尾市長

自主防災組織は、地域によって取り組みの差を感じる。人材不足については、地域で解決していくというのが第一歩だが、行政でもお手伝いしたいと思っている。公助と共助の連携がうまくできていないというご指摘だが、今回の東日本大震災では、現地で様々な話を伺い、市として重く受け止めている。改めて、様々な訓練を重ね課題を見つけていく中で、公助・共助・自助ができる部分をしっかり分けて、対策を考える機会にしていきたい。

行政としても、全面的に応援をさせていただきたい。学校での帰宅の判断マニュアルについては、議会でも指摘された。今回の震災を受け、各学校にマニュアルを整備した。

要援護者については、今回の東北の実情を聞き、医療を必要とする方々にとって、本当に厳しい状況であったと聞いている。要援護者登録については、現在、申し出の方式をとっているが、それが最良の方法ではないので、地域での支え合いを、どう仕組みとして作っていかれるかという事を、一緒に考えていきたいと思っている。ある自治会では、20人くらいの単位でリーダーを決め、リーダーが個別訪問をして常に世帯の把握をしていると聞いている。地域の仕組み作りには、行政がどこまでお手伝いできるかが課題だと思う。それらを含めて、津波の避難訓練、更にはミニ防災拠点での宿泊型の訓練も併せて、行っていただきたいと願っている。

地域での横の関係を深めていく機会を、多く持っていただきたいと思っている。

●浄明寺町内会 深山会長

この問題については、行政にまだ課題があると思うが、自治会・町内会にも課題があると思うので、これからもっと話し合う機会を設けていただきたい。

●二階堂親和会 橋本会長

私どもでは、3月11日以後に全町民に呼びかけ、120人ほど集まって炊き出し、救助法などの訓練を全部やった。第二小学校は夜でも入れると言われたが、3月11日は入れなかったため、鎌倉宮にお年寄りが来られ、発電機を初めて使って終夜電気を照らしていた。緑苑台には300人位の住民がいるが、66の班に分け防災の長を決めてあり、災害の時はすぐに指令が出るようになっている。私が出られない時は副会長が全部指示をすることになっている。何かの時には、大塔宮が使えるようになっていて、発電装置、3日分ほどの食糧、釜、薪などを備えている。予想外のことは無理としても、何とかできるようにと二階堂では取り組んでいる。

大震災の日、バイクで町内を回ったが無事だった。第二小学校は係の人もいなくて入れなかった。信号が停電で点灯していなかったが、万一、事故があるといけないため、警察がやることなので任せた。結構な渋滞だった。市の職員には全く会わなかった。大塔宮は開けてもらったが、第二小学校は避難場所なので、地震があったら、市の職員はすぐに来てほしい。

テーマ2 「ごみの減量化対策への協働」について
—自治・町内会の位置づけと役割分担—

●鎌倉ハイランド自治会 藤原会長

ごみ問題で考えるポイントは、燃やすごみを減らすことで、どう対応するかは大きな課題だと思う。生ごみ処理機については、対応を考える時ではないかと思う。

自治会で会員にアンケートをとった際、生ごみ処理機は、洗濯機や冷蔵庫とは違い、無くてもよいという結果が出た。主婦から見ると分別など手間がかかる。

もう一つは、ごみ処理の有料化は異存なしという結果が出た。

○松尾市長

ごみ問題は議会との関係などで、皆さまには、分かりにくい課題になっていると思う。

私は、ごみが出ないもの作り・生活の実践を目指したいと思っている。理想ばかりを言うつもりはないが、製造時にごみにならないように造れば、ごみは存在しなくなる。

今日もペットボトルのお茶を出しているが、ペットボトルのリサイクル費用は1本あたり5円かかる。年間で1億円以上がペットボトルをリサイクルするのにかかってしまう。出さなければ1億円はかからない。ごみにならない物を使っていこうということを、市民全体の運動として興していきたい。

ただ、本市には、名越、今泉の両クリーンセンターの老朽化という喫緊の課題があり、特に今泉クリーンセンターは焼却炉を停止する覚書があるため、名越クリーンセンターに一元化しなくてはならない。しかし、名越での焼却量の限度や、地元にお住まいの方のお気持ちなどを鑑みの中で、今4万トンある燃やすごみを、3万トン以下にしていくのが、そもそもの大きな課題だった。その手段の一つとして、バイオマスエネルギー回収施設を考えたが、全国的に見ても、鎌倉市の規模として参考にできる事例がない。

発電という発想はよいが、慎重に考えていくべきだと思う。先んじて手を出して失敗をするとならぬので、全国に事例の少ない方法は、今の鎌倉市では手を出すべきではないと判断し、建設しない方向をとらせていただいた。

では、その減らすべき1万トンをどうするかであるが、今回、事業者の方々をお願いする部分に重きを置き、1万トン～1万4千トンまで減らせると行政は試算している。

市民の皆さまにも、ごみを出さない生活を重ねてお願いするところで、1万トンの削減を皆さんと乗り越えていきたいと考えている。

また、使い捨てをやめるという意味では、リユース食器使用への補助金制度なども設けたので、ぜひご利用いただき、皆様のご協力をお願い致します。

○相澤環境部長

藤原会長より、生ごみ処理機について、一つのポイントだろうというお話を頂戴したが、生

ごみ処理機を使うと、どのように台所が快適になるのかというところが、ご理解いただいているまいかと感じている。そこをご理解いただき、使っていただくにはどうしたらよいかを、頭をひねっているところである。実際に稼働している状況を、鎌倉市役所で一部ご覧いただけるが、日々の変化や行うべきメンテナンス等が見えないことが、主婦の方のご心配を払しょくしない部分だと思う。そこで、機種ごとに展示し、実際に中にごみを入れ、虫の湧き様、臭い、電動の場合は音などを庁舎内で土の上に置いたものを見ることができるよう作りつつある。地元の推進員の皆様にもお声掛けしながら、生ごみ処理機について、生活者の目でご覧いただきたい。

有料化については、ハイランドの皆様は賛成が多かったとのことで、進めている立場としては心強い。有料化で市民が納得してもらえるのかと議論になる場合もあり、どのようにお声をいただくかも含め、工夫をしていく必要がある。

●二階堂親和会 橋本会長

祭りの時、貸し出しリユース食器を使用したので、ごみはでなかった。まだ、制度が浸透していないし、よりよい制度となるように、進めてよいと思う。

あと、紙オムツの再生が、ごみの減量には有効だと思う。

○相澤環境部長

日本では、紙おむつを元の製品に戻す技術を、福岡県大牟田市で大学との共同研究で試行まで進んでいる。ただし、非常に大きな施設が必要となるので、それを鎌倉に持ってくるのは難しい。

そのほかに、燃焼材に加工する機械がある。都内の病院や島根県の町などで既に導入している所がある。一坪くらいの施設にはなるが、鎌倉市では、その施設の導入を目指しており、その施設を何処に置くかを検討している。当初は試験的に、ふれあい収集で集めた紙オムツからのスタートかと考えている。

●八幡宮前振興会 都筑会長代理

年寄りが多いので困るのが、分別が大変複雑であり、何度確認してもすぐに忘れてしまう。高齢者の多い我々の地域は、毎日のように収集日を間違えて出してしまう。

また、観光客がごみを置いていって、これを近所の住民が片付けているという現状もある。有料化は先になるということだが、細い路地の奥まで取りに来てくれるのか。

○相澤環境部長

戸別収集については、資源物の戸別収集は難しいが、燃やすごみは戸別収集を計画している。当初の予定では、平成 24 年 4 月から、谷戸の地域など約 2,000 世帯を、モデル地域としてスタートする予定であった。予算の問題などで少し遅れるかもしれないが、24 年度中には

スタートできればと考えている。戸別収集の課題は谷戸地域の収集についてであったが、これを解決するために小さい車で、入れるところまで入って、収集できるかを調べる。

●八幡宮前振興会 都筑会長代理

谷戸も結構だが、人通りが多く、観光客がごみを置いて行ってしまう。網を被せても何をやっても解決しない。人や車が通れないまでの状況になる地域があることも踏まえてほしい。

●横町町内会 小田切会長

我々町内会は、クリーンステーションを設置する場所が無くて困っている。車の通行の多い県道沿いや辻説法通りは、毎週クリーンステーションの位置を移動して、ブロック塀に袋を掛けるようにしている。いつクリーンステーションの場所の廃止を言われるか不安である。路地の中や県道沿いのバスが横を走っている危険なクリーンステーションに、老人がごみを捨てているので、谷戸だけでなくこちらも考えに入れ、お金のかからない戸別収集が出来るようにしてほしい。

○相澤環境部長

まず、モデル地区約 2,000 世帯で半年ほど検証し、その後、更に 20,000 世帯を1年間、場合によっては短縮して実施し、最終的に全世帯に広めていこうと考えている。最初は試行錯誤になると思う。その時に、ご発言のあった町内会を対象にできるかは、私どもにお任せ願いたい。

1年強で、全世帯に拡大していきたいと思っている。

戸別収集は、クリーンステーション方式よりは手間がかかる。収集委託等し、民間の力を活用し、効率良くやっていきたいと思っているが、費用について、クリーンステーション収集より費用がかかるのは、致し方ないと思っている。

テーマ3 世界遺産登録を前にした地域課題について

●十二所町内会 大木会長

朝比奈切通し手前に太刀洗川があり、太刀洗水といって鎌倉五名水のひとつである。市には、名称だけでも早く掲示してくれと頼んでいる。先日、太刀洗川にニジマスを 200 匹ばかり放流し、子どもたちに釣りとかみ取りをさせるために、川沿い全部を清掃し、太刀洗水の井戸部分も掃除をした。他の名水には銘板がはってある。掃除をした時に、銘板の跡が、鎌倉石に残っていた。

朝比奈切通しは世界遺産の中では一つの名称として出ているが、十二所町内でまとめた「十二所知識」では、その中に、色々な名跡がある。昔は大概、名称が表示してあったが、最

近、市の方で力を入れないのか、地元が手を抜いているのか、そういうものが無くなっている。朝比奈を越えてきた人に、太刀洗水の場所を聞かれると「皆さんが通り過ぎてきたところでず」と答えるようになる。

世界遺産登録も必要だろうが、その前に地元の名所旧跡の表示をすべきと思う。

○島田世界遺産登録推進担当担当部長

市では、世界遺産登録について、平成 16 年に特命担当部を設置し、推薦を目指してきた。想定していたスケジュールより、多くの年月を要してきたが、ようやく登録推薦に向けた一定の見通しがついてきたと受けとめている。

今年度、文化庁からユネスコへの推薦が図られるよう最大の努力をしていきたい。現在の状況では、高い見通しを持って進めていけるのではないかと考えている。

その後、平成 25 年 6 月に審査を受け、登録となる予定である。

まだ、正式な発表には至っていないが、経過や推薦書の内容なども含めて、広報紙、ホームページ等で、市民の皆様にお知らせする。史跡や重要文化財は、世界遺産というツールを使って確実な保存を図っていききたいというのは大きな取り組みの一つだが、地元にも古くから伝わる色々な文化財、あるいは伝統的な取り組みなど、「鎌倉」という長い歴史を持つ文化を有する町として、行政としても支援を図っていくことは、世界遺産登録を目指す事と同じ大きな柱になって行くのだと思っている。

鎌倉に伝わる貴重な文化財の保存に向けて取り組んでいきたい。

○小磯市民経済部長

名称の掲示だが、文化財的見地で設置できないということであれば、観光の立場でつけるよう考えている。

また、公衆トイレの整備については、計画的に改修を進めており、今年度は、鶴岡八幡宮の休憩所内の公衆トイレの改修をしている。

世界遺産登録の進捗を見つつ、計画的に前倒しをしながら、進めていきたい。特に北鎌倉方面に公衆トイレが少ないので、整備の計画を検討している。ただ、新たに設置するには土地が必要であるので難しい。そこで、お店のトイレを使わせて頂くお願いをしている。

しかし、利用者のマナーなどから、トイレの利用を断る旨の掲示をしてある店もある。

市としては、補助のメニューを提案しながら、使わせていただけないかという制度を検討しており、できるだけ開放していただけるよう進めていきたい。

トイレはどこでも必要なもので、いろいろな工夫をして、整備を進めていきたいと考えている。

○瀧澤経営企画部長

世界遺産、文化財等をどう保存していくかについては、それぞれ所管で個別に計画をたてている。今、平成 24 年度から 27 年度までの 4 年間に、鎌倉市が向かうべき方向を決める、

総合計画の練り直しをやっているところである。今日いただいたご意見を十分踏まえ、計画の作成にあたっていきたい。

特に世界遺産の進め方、文化財をどう守っていくのかは、鎌倉特有の課題である。加えて、観光、自然、みどり等、様々な行政課題を抱えている。鎌倉地域東地区は特にみどりの多い地区なので、それをいかに保全していくかも大きな問題である。

国、県も含めた行政の役割やできる部分の整理、また、市民の皆さまにも協力を得ながら進めていくべく、様々な角度で計画を作っていくと思う。

今年の12月頃までには計画を作成して、皆さんにご案内する予定にしている。

皆さまでお気づきの点やご意見があれば、お伝えいただければありがたい。

●小町二丁目自治会 小泉会長

鎌倉では明治18年に「鎌倉保勝会」が結成され、鎌倉十井、十橋に今でも石碑が残っている。また、大正7～8年には青年団、青年会等が碑を建ててきた歴史がある。それは、町の中で分かるようにしておこうとした歴史である。

このことを踏まえて、市も保存していく方法を考えてほしい。市役所に行くと、「管理はうちではない」と、どこの担当でも言うので困っている。市民の間でも分からなくなっている部分があるので、窓口を一本化して市全体で取り組んでもらいたい。

世界遺産の関係で、構成資産の周辺はバッファゾーンだが、大塔宮に元治苑の壊された石が積まれていた、元治苑の跡地には4階建のマンションが出来ると聞いている。

現在は、バッファゾーンの高度制限も一律15メートルだが、例えば10メートル程度にして、大塔宮から見ても目立たないようにするなど、きめ細かくしないとバッファゾーン自体が生きてこないのではないか。

世界遺産登録のためのきめ細かさではなく、まちづくりのきめ細やかさを考えた方が、鎌倉は世界遺産の為に頑張っているということにもなるのではという思いがする。

○松尾市長

私は、鎌倉はこれまでも観光客が大勢来ていただいている中で、地元の負担や、インフラ整備も十分出来ていない現状を考えたら、世界各国のお客様をどこまでお招きできるかという観点から、当初は世界遺産登録には積極的な姿勢で臨んではいないと話していた。しかし、世界遺産登録の本来の目的は、観光客の誘致や、経済の活性化ではなく、鎌倉の貴重な遺産を後世に伝え守っていく精神が重要であるとして、自分自身、認識を改めた部分がある。そういう意味では、世界遺産登録をする事が目的ではなくて、太刀洗水についても、そこに素晴らしい歴史があり、そのことを子ども達に伝えていく、地域に住んでいる方々が大切に守っていくということが非常に重要だろうと思っている。私もそういう面をもっと前に出して進めていきたいと思っている。

市がどのように関わっていくのか、その程度なども重要であるので、地域の皆さまとお話を

させていただきながら、しっかりと保全、そして皆様に周知できる体制づくりをとっていきたいと思っている。

高さ規制についても、これまで整理してきた部分はあるが、ご指摘の件については、従前であれば3階のマンションしか建たなかった地域で、なぜ今、4階が建つのかという根本的な問題もあると思っている。私はマンションを、今後、特に鎌倉地域について、多く造っていくことを促進すべきではないと考えている。そうした視点をしっかり持っていきたい。

これまでは、どちらかというと若者を誘致し、人口を増やしていくためにマンションが必要だという姿勢があった。私はこのあたりで、考え方を変えていく必要があると思っている。条例の作り方も工夫をしながら、皆さんの環境を守れる様に、世界遺産も含め、皆さまが胸を張って鎌倉を誇りに思えるようなまちづくりを目指していきたいと思っている。

●西御門自治会 閑田会長

世界遺産そのものより、交通渋滞を解消することが我々地区の住民の願いである。バスも予定どおり走らず、タクシーもなかなか来ない。

住民の生活を世界遺産の名のもとに犠牲にしている。世界遺産に直接関係がない地域も交通渋滞で犠牲になっている。この機会に見直しをしてほしい。

○松尾市長

世界遺産を目指すうえでということだけではないが、鎌倉市のたいへん大きな問題だと捉えている。

交通政策については、長年研究を続けているが、根本的な解決になっていないことのご指摘だと思う。そこで、例えば車で鎌倉に入る方々に、一定の料金を課しての流入規制を一つの方法として挙げていたが、これを、より具体的に検討を進める方向に入っている。

賛否両論あるが、ご意見を伺いながら慎重に進めていきたいと思っている。鎌倉地域を守っていくという視点からも、多くの観光客のマイカーが渋滞の原因になっているので、その辺の抑制を行政で考えていきたい。